



東京部会 (第 48 回)

日 時: 2012 年 4 月 17 日 (火) 19:00-21 : 00

場 所: 日本大学経済学部 7 号館 13 階会議室 3

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、小巻(日大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、高橋(桜修館中等教育)、升野(筑波大学附属中学校)、宮崎(蒲田高)、神尾(第一学習社)、石山(東証)、榊原(東証)、鈴木(日本経済教育センター)、宮部(筑波大教育学類)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生より、3月24日に宇都宮で行われた中学校の先生方の勉強会・ワークショップの報告、5月19日に予定されている札幌部会および6月17日に法教育の側が開催するシンポへの参加などについての話があり、経済教育ネットワークの活動がさらに広がりを見せていることが示された。
2. 新井先生より、東京部会レポートに基づいて、夏の経済教室の最終案の詰めが行われ、また「参加の勧め」のピラの案も配布された。また入試問題については、消費税のような従価税についての問題や、価格弾力性の概念を使った問題など、高校レベルでは答えるのが非常に難しい「悪問」の例が取り上げられた。今後ともこのような問題の例を見つけて検討を加え、よりよい入試問題を考える上での手がかりとすることになった。
3. 高橋先生より、教材「経済成長と所得の関係を考える」が配布され、授業で成長と所得分配の問題を取り上げるつもりとのこと。内容として、成長率そのものの意味、成長の原因・理由、成長と所得の関係という3つのテーマをどのように関連付けて生徒たちに理解させるかが課題とのことであった。注意点としては、所得分配が不平等なほど成長率が高まるという結論は、経済発展の初期段階でのストーリーであり、発展が進んだ段階ではより平等な分配がさらなる成長を生むというシナリオもあり得るといったコメントがあった。
4. 宮尾より、上記の成長と分配の問題について、配布資料「経済成長の重要性」の内容が紹介され、経済学者による様々な説や経済学者と歴史学者の間の論争などが紹介された。さらに、行動経済学に関する書評と論評も配布され、特に生徒たちに「やるべきことが分かっているのに、ついやることを先送りしている問題」の例をあげて、その解決方法を考えさせてはどうかという提案があった。そのような人間の非合理的な行動を考えることで、かえって合理的な行動を仮定する経済学の分析や結果への理解が増すのではないかという結論であった。

(文責:宮尾尊弘)

次回開催予定: 5月17日(木)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部7号館13階会議室)。議題は、夏の経済教室の準備、参加者からの活動報告、その他。